

*(Faint bleed-through handwriting from the reverse side)*

むら野乃純り 小條氏康

天文十六年仲秋乃出舟さう此をこんとし舟  
さう月がのし年さらなる事さる御らんこ  
うらほ御らんこ御らんこあそらんこ  
たあらんこ御らんこ御らんこ  
この御らんこ御らんこ御らんこ御らんこ  
この御らんこ御らんこ御らんこ御らんこ  
あせらんこ御らんこ御らんこ御らんこ  
この御らんこ御らんこ御らんこ御らんこ  
この御らんこ御らんこ御らんこ御らんこ  
この御らんこ御らんこ御らんこ御らんこ

卷三十三

山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら  
 山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら  
 山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら

山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら  
 山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら  
 山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる  
 まうしてきつたわらひにせよあつたはら  
 母といはれりてあつたはら

山崎の屋敷に居る者松乃平のくはる

らあへ海の舟のゆくもなほくくち舟にありしはも  
も

くはあし我世のあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

船名陽白のうらに船のあはれくはもきくあも舟の

むいあ房と緒まはれあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

書風はあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

あはれは月十日あはしあはれくはもきくあも舟の

予は八月申旬よりも成ぬ小田原にあり  
つるふけり

右武蔵野紀行以枚素拾葉集授合り

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

東國陣道記

玄旨法印

二月廿九日尾州勢田に居陣社勢惣換授乃家  
にとりてけりあるし海と社信實益増あり  
進く難談乃次當社の内八叙宮の日不武言  
をられり為徳ありて後教句重河の巻れハ  
こうへんといく東の標めらるる乃者

晦日冬別小つらりて細川乃若れ流と交く  
はる川乃若れ流と交くはる川乃若れ流と交く  
三月初日矢はる川とわらわら

これとよむかふふの矢はる川とわらわら